企業知財部門におけるローカルAI活用戦略

高い機密性と大量の文書処理が求められる知財業務において、
ローカルAI／オンプレミスAIを安全かつ効率的に導入・運用するための戦略



ローカルAI導入のメリットと課題



トークンコスト削減と高ROI

クラウド従量課金を排除し、高度タスクで1ユーザー当たり最大1,300ドルの優位性を獲得



未公開発明の完全な秘匿化

外部通信なしで1,200億〜1兆パラメータモデルを実行し、データ主権を確保





初期投資と管理負担の増加

100万円超のハイエンド端末価格や、多数の自律エージェントの統制・管理が課題

業務領域に応じた階層型ハードウェア運用



クラウド50:ローカル50

秘密情報の分析はローカル、公知情報の網羅収集はクラウドへと振り分け





2層セキュリティ基盤の構築

BIOSレベルのオンデバイス防御と管理基盤の組み合わせで暴走リスクを遮断

知財業務の機密性と処理負荷に応じた最適ハードウェアの使い分け

エントリーAI PC	ハイエンドAI PC	オンプレミスAI WS
 対応モデル規模：40億〜500億	 対応モデル規模：最大1,200億	 対応モデル規模：1兆〜10兆
 主な適用知財業務：知財事務・期限管理・社内QA	 主な適用知財業務：発明ヒアリング・明細書作成	 主な適用知財業務：先行技術調査・IPランドスケープ
 導入効果：低投資で定型業務と日常連絡を効率化	 導入効果：未公開発明の対話をトークンゼロで反復実行	 導入効果：部門共有インフラとして超大規模分析を完結

Gemini Notebook